



吉田太一 キーパーズ有限会社代表取締役
「遺品はゴミではなく、その人の人生のすべて」と言い、02年に世界初の遺品整理会社を誕生させた。社名はキープセイク=形見をもじったものだという。

それが実現したら、コレクターには嬉しい話ではないだろうか？
たとえば韓国には、15年で30万円程度のレンタルケース形式でお骨と遺品を収められる納骨堂があるんです。お骨に納骨と取集品の展示ができるスペースを作り、生前からそこを確保しておいて、死んだらそこに取集物と共に納骨され、家族以外の同好の士も観る事ができるミュージアム的な場所、供養もして貰えるという場所を提供するんです。骨壺をオタク仕様のものにするのもできるかもしれない。そんなオタクの聖地としての納骨堂が日本にもあっていいんじゃないかと思えます。まあ、20代に来られても困るので、45歳以上とか年齢制限をして。人形にも戒名を付けたり、様々な形態のパッケージを作って提供するんです。それは、ここ1、2年考えていて、オタクの人たちが、何かあったらやっぱり「キーパーズ」

だつていうふうに言われるようにね。要望が多ければそういうこともできるし、「アノオタク納骨堂」とか、「鉄オタク納骨堂」とかができるのかもしれないです。
お盆はかかりそうだが、オタク心をそぞろ話じゃないか！
結局、今若い人が何十年か先の事を考えるのは無理なんです。年配の人は事前見積もりをしたりしますが。さしたる希望はなくて、ただ捨ててくれという依頼が多い。レアなものは寄贈先や形見分け先などを聞いておき、それに伴う申込書を書いてもらいますが、その際に見積もり料をいたたくので、遺言とは違いますが、依頼者の死後、その申込書通りに作業は行います。遺族がうちに連絡してこないまま片付けても、連絡金なども発生しません。
人に知られたくないものを処分



手が着けられないほど散らかっていた部屋もこのとおり！ この状態に復帰してから、部屋の管理会社に引き継ぐ。

最近オタクの納骨堂があっても良いのではないかと感じています

キーパーズのシステムは？
遺品整理という新事業を生み出した、「キーパーズ」吉田社長に話を伺った。

まず問い合わせがあったら無料見積もりを伺い、ご希望を聞いて金額設定をし、納得していただいたら作業を開始します。作業日に伺い、遺族の方に再度最終的に残すものがないか確認していただきます。作業に入っても残すものと残さないものの分類を行いながら、貴重品の確認を行い、廃棄するものとそうでないものを区別して箱詰めします。
廃棄業者のトラックが到着したら廃品を回収してもらい、家電道具や家電品など買い取りをするものも確認し、リサイクル対象のゴミなども車に積み込みます。最後に管理会社に引き継げるように清掃をして終了。これが大まかな作業の流れです。

オタクといわれる人たちの死も、これからは増えていくと予想されているようですが？
これまでにも、何件かオタクと思われる方の物件も扱ったことがありますが、自殺者が孤独死の人がほとんどです。寿命や病気で亡くなる人の中のおタク率はまだ少ないです。これから増えていくところかもしれません。
将来はオタク向けの納骨堂も？
その将来を見越して、新たなシステム開発の必要性も視野に入れているという。



丁寧に仕分けされていく荷物。「キーパーズ」では、廃品・粗大ゴミ回収やゴミ屋敷・ゴミマンションの片付け専門の「クリーンエンジェル」も運営している。

たときに、コレクションを預けられるお墓のような保管場所を作れないかと言ってくる方もいるんです。たとえばお骨にコレクションの保管場所を作って、納骨も可能にするんです。生前からそこで管理して、外部の観覧も自由にできる施設ができないかと考えたりしています。